

半田市

かめざきしおひまつり

亀崎潮干祭



歴史

潮干祭は神前神社の祭礼です。300年以上もの長きにわたって、祭の風格・伝統が守り伝えられてきました。平成18年（2006）に「亀崎潮干祭の山車行事」として国の重要無形民俗文化財に指定され、平成28年には「山・鉦・屋台行事」の一つとしてユネスコ無形文化遺産に登録されました。また、東組宮本車、石橋組青龍車、中切組力神車、田中組神楽車、西組花王車の山車5輛も昭和41年（1966）に県の有形民俗文化財に指定されています。

祭礼日

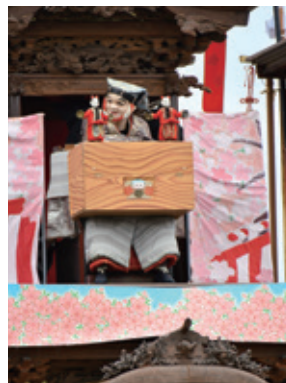
5月3日・4日

祭礼場所

神前神社・尾張三社

内容・見どころ

海より祭神が上陸したという伝説にちなみ、5輛の山車を干潮の浜辺に曳き下ろし、寸分の間隔で横列に並べ、再び陸へと曳き上げる勇壮な祭であり、最大の見どころです。各山車の前棚と上山には精巧なからくり人形が搭載され、様々な妙技や演目を奉納します。また、山車の町内曳き廻しや、御旅所となっている尾張三社への警固行列も行われます。山車5輛は、彫長、立川一門、瀬川一門、彫常等の精緻な彫刻や金銀の刺繍幕で飾られています。



半田市

おっかわまつり

乙川祭



歴史

名古屋城築城のおり、乙川村内の浅井川より出た大石を台車で名古屋まで運んだことが起源であるとする伝承があります。また、江戸時代中期の宝暦5年（1755）の「乙川村祭礼山車絵図」にはその当時の様子が、描かれています。平成31年（2019）に「乙川祭礼行事」として市の無形民俗文化財に指定されました。浅井山宮本車、殿海道山源氏車、南山八幡車、西山神楽車の4山（輛）が、昭和54年（1979）に市の有形民俗文化財に指定されています。

祭礼日

3月中下旬の土曜日・日曜日

祭礼場所

乙川八幡社・若宮社

内容・見どころ

神輿に乗った祭神が八幡社から御旅所の若宮社に渡御し、翌日還御します。このときに、4山が神輿を警固するために曳き出されます。八幡社急坂での4山の坂上げが一番の見どころで、若衆が一番楯を奪い合う様子から、「けんか祭り」とも呼ばれています。4山は、立川一門、彫常等による精緻な彫刻や金銀の刺繍幕、豪華な彫金で飾られています。また、1山に前棚人形の三番叟、2山に上山からくりの乱杭渡り等が搭載され妙技を奉納します。



岩滑祭礼

【岩滑まつり】



祭礼日

4月上中旬の土曜日・日曜日

祭礼場所

岩滑八幡社

天明元年（1781）の中組若連中からの口上書の記述から、このとき既に山車の祭礼が行われていたようです。江戸時代には、東組、中組、西組の3つの組がありましたが、明治時代の前半に東組と中組が合併し義烈組となり、その後は義烈組と西組の2組による祭礼として現在に続いています。昭和54年（1979）に、山車が市の有形民俗文化財に指定されました。また、岩滑は郷土の誇り、新美南吉（童話作家）の出身地でもあります。

山車による町内曳き廻し、三番叟、神子舞奉納、宵宮、南吉祭などが行われます。見どころは、岩滑中町交差点での山車の大回転や、南吉祭の花火です。山車は義烈組の八幡車と西組の御福車の2輦があり、地元半田の著名な彫刻師である新美常次郎（初代彫常）等による精緻な彫刻や金銀の刺繍幕で飾られています。また、八幡社において、2組による神子舞、義烈組による三番叟（前棚人形）が奉納され、その様子は南吉童話「狐」でも描かれています。



岩滑新田祭礼

【岩滑新田まつり】



祭礼日

4月上中旬の土曜日・日曜日

祭礼場所

神明社

岩滑新田地区は半田市の北西に位置し、平井組神明車と奥組旭車の2輦があります。平井組に残されている文書「平井組山車永代記」等によると、両組とも大正初期には山車を所有していました。半田市の中でも人口の少ない地区であり、昭和28年（1953）から昭和51年まで山車曳きは途絶えていましたが、祭礼への熱い思いから復活し、昭和54年に山車が市の有形民俗文化財に指定されました。

山車による町内曳き廻し、三番叟、神子舞奉納、宵宮などが行われます。新美南吉童話の舞台となったのどかな田園風景の中を山車が曳き廻される様はゆったりとした時代の流れを感じさせます。山車2輦は、地元半田の著名な彫刻師である新美常次郎（初代彫常）による精緻な彫刻や金銀の刺繍幕で飾られています。また、山車2輦ともに前棚人形が搭載されており、三番叟を奉納します。



半田市

かみはんださいれい

上半田祭礼
【ちんところ祭】

歴史

上半田の祭は北組と南組があり、住吉神社（入水神社）の例祭として古来から親しまれてきました。境内の宮池を利用した舟祭りや山車を組み合わせた独特の祭を形成しています。山車は北組唐子車と南組福神車の2輦があり、昭和54年（1979）に、市の有形民俗文化財に指定されています。また、津島天王祭由来とされる北組住吉丸と南組入宮丸の2艘のちんところ舟（巻藁船）で奉納される子供三番叟も、市の無形民俗文化財に指定されています。

祭礼日

4月上中旬の土曜日・日曜日

祭礼場所

住吉神社

内容・見どころ

山車による町内曳き廻し、宮池に浮かべたちんところ舟の上での子供三番叟奉納、宵宮などが行われます。半田市内の山車まつりで子供三番叟を奉納するのは上半田地区のみであり、舟とともに見どころです。「ちんところ祭」と呼ばれる由来は、舟上の提灯の形が珍灯籠であることと、お囃子が「チントロ、チントロ、サッサァーイ」と聞こえるからだと言われています。山車は立川一門や彫常等による精緻な彫刻や金銀の刺繍幕で飾られています。



半田市

しもはんだはるさいれい

下半田春祭礼
【下半田まつり】

歴史

下半田は古くから醸造業や海運業が盛んで、元文4年（1739）に寺社奉行に提出した文書から既に山車が曳かれていたことがわかります。祭礼は地縁にもとづく5つの氏子組織（北組、中組、東組、南組、中村組）により運営され、平成31年（2019）に「下半田祭礼行事」として市の無形民俗文化財に指定されました。また、北・中・東・南組の山車4輦が昭和54年（1979）、中村組の神輿が平成15年に市の有形民俗文化財に指定されています。

祭礼日

4月中下旬の土曜日・日曜日

祭礼場所

業葉神社・山ノ神社

内容・見どころ

山車による町内曳き廻し、からくり人形・前棚人形奉納、巫女の舞奉納、宵宮などが行われます。見どころは、神社への山車の曳き込みと宵宮です。唐子車（北組）、祝鳩車（中組）、山王車（東組）、護王車（南組）の山車4輦は立川一門や彫常一門の精緻な彫刻や金銀の刺繍幕で飾られています。また4輦に前棚人形、3輦に上山からくり人形が搭載されており、三番叟や太平楽、采振り、巫女の舞、唐子遊び、蘭陵王、二福神等の妙技を奉納します。



協和祭礼 【協和祭り】



協和地区は、成岩地区の北端に位置し、かつては北新居と呼ばれていました。祭礼では砂子組と西組からそれぞれ白山車と協和車の山車2輦が曳き出されます。砂子組は地区内の東寄り、港の海運を中心にして発展しました。一方の西組の地域は、かつては農業中心の土地で、以後住宅地として人口が急増しました。西組記録帳から大正12年（1923）以降、山車2輦による祭礼となり、昭和54年（1979）に山車が市の有形民俗文化財に指定されました。

山車による町内曳き廻し、白山神社における急坂道での山車の上げ下ろし、三番叟、巫女・神子の舞奉納、宵宮などが行われます。見どころは、神社に山車を奉納するために急坂を曳き上げる坂上げで、両組の曳き手が互いに力を出し合って一気に坂を上ります。山車2輦は、新美常次郎（初代彫常）、瀬川治助による精緻な彫刻や金銀の刺繍幕で飾られています。また、宮本の砂子組白山車には前棚人形が搭載されており、三番叟を奉納します。



成岩神社祭礼 【成岩祭り】



嘉永2年（1849）及び安政4年（1857）の「本成岩神事祭礼式定」には、北村、南組、東馬場、西馬場の例祭における打ち込みや下降の順序が記されています。明治23年（1890）の「神祭二関スル北村南組両組ノ条約書」にも例祭の形式を記し、これを伝統として継承し今日に至っています。昭和54年（1979）に、山車が市の有形民俗文化財に指定されました。また、「大獅子小獅子の舞」が昭和42年に県の無形民俗文化財に指定されています。

山車による町内曳き廻し、善六商店角の出会い・成岩神社への打ち込み、大獅子小獅子の舞、巫女舞、木遣り、三番叟奉納、宵宮などが行われます。見どころは成岩神社への打ち込みで、山車が勢いよく神社へ向かいます。山車は成車（北村）、南車（南組）、旭車（東組）、神車（西馬場）の4輦があり、立川一門、瀬川一門、彫常等の精緻な彫刻や金銀の刺繍幕で飾られています。また、南組南車には前棚人形が搭載されており、三番叟を奉納します。



半田市

なるいしじんじゃれいたさい

成石神社例大祭
【西成岩祭り】

歴史

半田市唯一の旧社格郷社である成石神社の祭礼で、6町内からなる西組（敬神車）と1町内からなる彦洲組（日之出車）の山車2輦が曳き出されます。地区内には、文明16年（1484）創建で、平安時代の仏性寺伝説があり、また、徳川家康所縁の寺院でもある常楽寺があります。古い歴史の中で育まれた地域で、氏神（成石神社）と地区内9か所の末社を山車2輦で巡る祭礼を行っています。昭和54年（1979）に、山車が市の有形民俗文化財に指定されました。

祭礼日

4月上中旬の土曜日・日曜日

祭礼場所

成石神社

内容・見どころ

山車による町内曳き廻し、成石神社南側急坂を登り境内へ打ち込み、からくり人形、三番叟、巫女の舞奉納、宵宮などが行われます。見どころは、市内最大規模の餅投げと神社下での曳き分れで、急坂から2輦の山車を降ろし紙吹雪で名残を惜しみます。山車2輦は彫常一門や瀬川一門の精緻な彫刻や金銀の刺繍幕で飾られています。また、2輦とも前棚人形が搭載され、三番叟、巫女の舞、そして敬神車の上山ではからくり人形鶴退治の妙技を奉納します。



半田市

いたやまのさいれい

板山の祭礼
【板山祭り】

歴史

板山地区の祭礼は、本板山組本子車、小板組旭車、大湯組花王車、日役組神力車の山車4輦が曳き出されます。その起源は定かではありませんが、本坂山組の勇参太鼓に天保2年（1831）、日役組が保管する獅子頭の箱に天保6年の年号が記されていることから、山車の有無は別として天保年間には祭礼が行われていました。昭和54年（1979）に山車が市の有形民俗文化財、「板山獅子舞」が平成9年（1997）に県の無形民俗文化財に指定されています。

祭礼日

4月上中旬の土曜日・日曜日

祭礼場所

板山神社・八幡神社

内容・見どころ

山車による町内曳き廻し、宵宮、板山神社での神子舞、三番叟奉納、八幡神社での板山獅子舞、三番叟奉納などが行われます。板山神社を氏神とする小板組・本板山組・大湯組の山車と、八幡神社を氏神とする日役組の山車が板山神社に集合する場面や、板山獅子舞が見どころです。山車4輦は、新美常次郎（初代彫常）や瀬川治助等による精緻な彫刻や金銀の刺繍幕で飾られています。また、山車2輦には前棚人形が搭載されており、三番叟を奉納します。



亀崎コミュニティ夏祭り



起源は、明治10年（1877）から三社祭として行われてきた尾張三社の例祭です。昭和37年（1962）以降中止になっていましたが、昭和59年に亀崎地区コミュニティ推進連絡協議会の夏祭りとして復活し、現在に至ります。

祭礼日

7月下旬～8月上旬

祭礼場所

亀崎町内

内容・見どころ

女性も参加できる華やかな山車まつりで、山車の楫棒に渡した舞台上では女の子による踊りの奉納も行われます。山車は四神車・秋葉車・唐子車・朝日車・牡丹車の5輛あり、多くの提灯で飾られています。



乙川祇園まつり



津島神社の例大祭で、古くは3輛の山車が出ていましたが、いつの間にか途絶えていました。平成10年（1998）に、一部残されていた旧材や亀崎潮干祭の東組から譲り受けたゴマ（車輪）を使用し、地域有志の浄財により、山車（天王車）1輛を60年ぶりに復活させました。

祭礼日

7月26日に近い土曜日

祭礼場所

津島神社

内容・見どころ

山車の町内曳き廻しや花火の打ち上げなどが行われます。また、山車前面の舞台では女の子が日本舞踊を披露します。山車は1輛で、提灯や造花で飾られています。



半田市

みずほくぼんおどり

瑞穂区盆踊り



歴史

半田市の南東部に位置する瑞穂区で行われる夏祭りです。平成8年（1996）、3つの新田と一緒に瑞穂区ができた際、区の象徴として山車（瑞宝車）が建造されました。

祭礼日

8月第1土曜日・日曜日

祭礼場所

瑞穂記念館

内容・見どころ

女性を中心とした三味線、お囃子の音色が高らかに響き渡る華やかな祭です。山車は1輦で、提灯で飾られています。半田市の春祭りは男性中心なため、女性や子供・年輩に親しまれる花車になっています。



半田市

きたくなつまつり

北区夏祭



歴史

半田市の南東部に位置する下半田地区で行われる夏祭りです。天皇陛下御成婚の平成5年（1993）に完成した現在の山車は、「雅車」という名称であり、皇后陛下「雅子様」の名に由来しています。

祭礼日

8月第1土曜日・日曜日

祭礼場所

業葉神社

内容・見どころ

山車の前楯に板を渡して舞台とし、日本舞踊やお囃子を奉納します。山車は1輦あり、2層構造で、水引幕に見立てた御簾や約120個の提灯で飾られています。



大野祭り



起源は不明ですが、宝暦5年（1755）に尾張地方の祭礼を調査した記録「尾陽村々祭礼集」の記述から、この当時から既に山車まつりが行われていたことがわかります。昭和46年（1971）に、橋詰町のあやつり人形芸能とお囃子が市の無形民俗文化財に指定され、平成3年（1991）には、山車3輛が市の有形民俗文化財に指定されました。

祭礼日

5月3日・4日

祭礼場所

風宮神社・小倉神社・宮山天満社・江崎社

内容・見どころ

祭では山車3輛と巻藁船1艘が出されます。3日の宵祭りは夕方より提灯を山車の上部より垂らし、町内の中心部を曳き廻します。4日の本祭りは地区内を山車が曳き廻され、主だった所でお神楽を奉納し、からくり人形を操ります。道路が狭くて山車の曳き廻しができない地区へは、曳き廻し終了後、太鼓と笛で神楽囃子を奉納します。見どころは、大野橋での山車3輛と矢田川に浮かぶ巻藁船の競演や、からくり人形奉納、山車の方向転換です。



小倉区祭礼

【小倉天神社山車祭り】



祭礼の起源は不明ですが、現存する道具箱などに天保15年（1844）の墨書があり、山車まつりがその当時から行われていたことが推定されています。昭和33年（1958）以降、山車の曳き廻しが中止されていましたが、平成3年（1991）に山車を修理して復活しました。

祭礼日

4月23日に近い土曜日・日曜日

祭礼場所

小倉天神社

内容・見どころ

宵祭りと本祭りがあり、山車の曳き廻しやお囃子の奉納などが行われます。山車の曳き廻しは「チャンチャンドケ」と言われ、見どころの一つとなっています。山車は1輛で、宵祭りでは提灯で飾られ火が灯されます。かつては山車にからくり人形が搭載されていましたが、人形を飾ると雨が降るので、いつの頃からか飾らなくなり人形は売却されたと伝えられています。



常滑市

にしのくちくさいれい

西之口地区祭礼
【西之口祭り】

歴史

西之口の祭は神明社の祭礼として始められ、五穀豊穡、無病息災を願っています。祭礼の起源は不明ですが、帳箱の墨書きから文化14年（1817）と推定されています。台風や後継者不足等により何度か中止になりながら現在に至ります。平成26年（2014）と平成29年に、2輛の山車がそれぞれ市の有形民俗文化財に指定されました。

祭礼日

4月第3土曜日・日曜日

祭礼場所

西之口神明社

内容・見どころ

宵祭りでは夕方に山車が提灯で飾られ火が灯され、神明社でお神楽を奉納します。本祭りでは縁のある所や山車が曳き廻せない所での勇み囃子演奏、山車を曳き出し縁のある所でのからくり人形の披露、奉納などをします。夕方には、神明社前に集合し祭をしめくる境内への走り込みを行い、お神楽、からくり人形の奉納をします。見どころは、お囃子、からくり人形、山車の曳き廻しです。2輛ある山車にはからくり人形が搭載され妙技を披露します。



常滑市

やたくさいれい

矢田区祭礼



歴史

古くは3頭の馬を走らせた祭を行っており、一馬には御幣、二馬に桜、三馬に柳を付けていました。しかし昭和30年（1955）頃より祭礼用の馬が少なくなり、以後、飾り馬祭りは廃止となりました。その後、昭和62年に子供会が山車まつりを発案し、半年かけて山車1輛を建造したことが現在の山車まつりの始まりです。このとき、飾り馬の古い伝統を将来に伝える意味で、山車には一馬と同じ御幣を飾り「御幣車」という名称が付けられました。

祭礼日

4月第2土曜日・日曜日

祭礼場所

矢田八幡神社

内容・見どころ

宵祭りと本祭りがあり、山車の曳き廻しやお囃子、神楽、太鼓の奉納などが行われます。宵祭りでは、矢田八幡神社の参道で提灯に神火を灯し、拝殿に進み、神楽と笹提灯の奉納が行われます。これは、見どころの一つにもなっています。山車は2輛あります。



多屋区祭礼



明治～大正時代は、舟山車に幟を掲げ曳き廻していましたが、昭和に入り、歴史的人物の作り物を乗せ、造花で飾った山車（花車）を製作しました。その後、昭和37年（1962）まで続いた祭は中止となりました。しかし、昭和63年から1年がかりで、地元の大工を中心に多屋区民により本格的な山車を手造りで完成させ、平成元年（1989）の春より海梶神社の祭礼時に曳き廻し、現在に至ります。



祭礼日

4月第1土曜日・日曜日

祭礼場所

海梶神社

内容・見どころ

山車（海梶車）の曳き廻しやお囃子の奉納などが行われます。海梶車のほかに3台の「ミニ山車」があり、海梶車が通らない町内を巡回し祭を盛り上げます。昔の花車を模して山車は手造りの桜の花で飾られ、門付（山車の正面を玄関に向ける）した家や祭を見に来た子供たちへ配られます。



常滑地区祭礼



明治38年（1905）、日露戦争での勝利で常滑町が行った凱旋祭に6つの字が参加して始まりました。これ以降、白山招魂祭として山車まつりを行い、明治時代末期に神明社と常石神社の例祭を併せて行うようになりました。昭和20年代からは、招魂祭と例祭日が分けられます。山車2輛（瀬木区・奥条区）が市の有形民俗文化財、三番叟芸能（奥条区）、お囃子（北条区・奥条区・瀬木区）が市の無形民俗文化財に指定されています。

祭礼日

4月第2土曜日・日曜日

祭礼場所

北条の神明社・常石神社

内容・見どころ

2つの神社の各氏子が行くという特徴を持っています。知多地区の中でも最多の6輛の山車がそろい、同一コースで地区内を曳き廻し、氏神社へ神楽を奉納します。また、曳き廻し途中では各家に門付（山車の正面を玄関に向ける）し、神楽の演奏と伊勢音頭で無病息災・商売繁盛などを祈念します。見どころは各山車の門付及びお囃子、からくり人形などです。山車は6輛あり、そのうち5輛にからくり人形が搭載され三番叟や妙技を披露します。



常滑市

こばくさいれい

古場区祭礼
【恒例祭】

歴史

明治時代末期より4月の恒例祭として、御車の曳き廻しや秋葉社での獅子舞奉納などが行われていました。昭和44年（1969）に青年団員の減少で御車の曳き廻しが行われなくなり、御車の部材は一部を残して廃棄され、神事のための祭礼となりました。現在の山車は昭和59年大阪府泉佐野市で製作されただんじりを譲り受け、知多型に改良して平成26年（2014）の祭礼で山車の曳き廻しが復活しました。

祭礼日

4月第2日曜日

祭礼場所

古場神神社

内容・見どころ

山車の曳き廻しやお囃子、獅子舞奉納などが行われます。見どころは、秋葉社での少年少女囃子保存会会員の演奏や獅子舞の奉納です。山車は1輛あり、関西のだんじりを知多型に改良した特殊な形状です。



常滑市

おおたにさいれい

大谷祭礼



歴史

起源は不明ですが、宝暦5年（1755）に尾張地方の祭礼を調査した記録「尾陽村々祭礼集」の記述から、この当時から既に山車まつりが行われていたことがわかります。昭和46年（1971）に、お囃子が市の無形民俗文化財に指定され、昭和59年には、山車1輛が市の有形民俗文化財に指定されました。

祭礼日

3月第4土曜日・日曜日

祭礼場所

大谷八幡社

内容・見どころ

土曜日の曳初と夜宮、日曜日の本日に山車の曳き廻しが行われ、大谷八幡社と御旅所に山車を奉納します。見どころは、大谷八幡社・御旅所での2輛の山車をギリギリまで寄せ合う場面や、お囃子で山車が曳き廻されるため、お囃子と山車が一体となることです。子供たちが三番叟（奥條は媼、浜條は翁の舞）を操り奉納します。



常滑市

はくさんじんじゃれいさい

白山神社例祭

【小鈴谷区祭礼】



祭礼日

4月第1日曜日とその前日

祭礼場所

白山神社

歴

史

小鈴谷村の庄屋を務めた盛田家の文書（文化十三年（1816）諸願達留）に「正月十八日 九月四日 白山宮 湯乃花 六月十五日 天王宮 獅子一頭」との記述があることから、この当時は1月と9月に白山神社で湯取神事、6月に天王宮で獅子舞を行っていたことが確認できます。明治38年（1905）に初代の山車を建造し、その後、大正7年（1918）に現在の山車を購入しました。また、令和2年（2020）に大改修を行い、現在の姿になりました。

内容・見どころ

山車の曳き廻しや子供囃子、からくり人形、獅子舞の奉納などが行われ、これらが見どころになっています。山車は知多型が1輛あります。からくり人形は上山人形で、目と口にからくりの構造があり、大廻しの出桶を使用して三番叟を行います。獅子舞は伊勢大神楽系の神楽獅子で、女性の着物を着た女獅子と男性の祭装束を着けた男獅子の舞です。



常滑市

まつおじんじゃれいたいさい

松尾神社例大祭



祭礼日

3月最終土曜日・日曜日
又は4月第1土曜日・日曜日

祭礼場所

松尾神社

歴

史

坂井の山車曳き廻しは、地元に残る記録には、「宝暦5年（1755）、津島神社天王祭礼が8月に行われていた」と記載されており、現在まで260年余り続いています。昭和48年（1973）に、糸からくり人形芸能が市の無形民俗文化財に指定され、昭和60年には、山車が市の有形民俗文化財に指定されました。

内容・見どころ

山車の曳き廻しやお囃子、からくり人形の奉納などが行われます。初日には道検査が行われ、添梶主任を先頭に、梶取衆・監督・老公衆が道路に障害物などがないかを調べ、山車の運行の安全確認をします。見どころは、松尾神社境内からの坂下ろしや境内に向けて坂の上り、180度の方向転換です。山車は1輛あり、からくり人形が搭載されています。山車の上を舞台に、浄瑠璃語りと三味線で糸からくり人形芝居を奉納します。



東海市

おおたまつり

大田まつり



歴史

大田まつりは、かつて大宮神社の祭礼に奉納されていた傘鉾が始まりであると伝わっています。伝承によれば、天明2年（1782）に荒古組が山車を建造し、これに次いで里組、市場組、黒口組が山車を建造したとされています。昭和44年（1969）に、山車4輛が市の有形民俗文化財に指定されました。

祭礼日

10月第1日曜日及び前日土曜日

祭礼場所

大宮神社

内容・見どころ

土曜日が試楽、日曜日が本楽とされ、祭囃子の演奏とともに山車が曳き廻されます。山車4輛にはからくり人形が搭載されており、大宮神社などで演技を奉納します。また、山車の車輪の片側を持ち上げ、その場で回転させる「どんでん」が見どころの一つになっており、中でも大宮神社境内で行われる「どんでん」は各組の山車が競い合うように行われ、祭は最高潮を迎えます。



東海市

おわりよこすかまつり

尾張横須賀まつり



歴史

江戸時代前期（寛文～元禄年間）に横須賀御殿をししば訪れた尾張藩2代藩主徳川光友公のために行われたという傘鉾祭りが起源とされます。現在のように山車が曳き廻されるようになったのは、江戸時代後期のことと言われています。昭和44年（1969）に、山車5輛が市の有形民俗文化財に指定されました。

祭礼日

9月第4日曜日及び前日土曜日

祭礼場所

愛宕神社

内容・見どころ

北町組、本町組、公通組、大門組から山車が出されますが、公通組は2輛の山車を所有しているため、隔年で1輛ずつ曳き廻されます。土曜日が試楽、日曜日が本楽とされ、山車の曳き廻しや祭囃子、からくり人形の奉納などが行われます。山車5輛には、からくり人形が搭載されています。また、十字路で山車の車輪の片側を持ち上げ、その場で回転させる「どんてん」が行われ、祭は最高潮に達します。



横根藤井神社祭礼



祭礼日

10月第2日曜日

祭礼場所

藤井神社

横根町の藤井神社の祭礼は、江戸時代中頃から飾り馬や山車曳きが行われるようになりました。石丸組・中組・南組の3地区がそれぞれ山車を曳きます。明治時代末期までは、山之神社祭礼で出される山車が横根藤井神社祭礼にも曳き出されていました。昭和43年（1968）に、山車3輛が市の有形民俗文化財に指定されました。また、祭礼で奉納される三番叟も、平成元年（1989）に市の無形民俗文化財に指定されています。

山車の曳き廻しや三番叟の奉納、子供獅子の町内祝い練り、餅投げなどが行われます。見どころは神社での三番叟奉納であり、山車の前に設置された舞台の上で子供たちが演じます。子供三番叟は、能を起源とした郷土の吉例の舞で、古くから石丸組・中組・南組の3地区に受け継がれている伝統行事です。



北尾山之神社例大祭



祭礼日

10月第2土曜日・日曜日

祭礼場所

北尾山之神社

北尾山之神社例大祭では、北尾地区によって北尾力神車を曳き廻し、幕末の安政4年（1857）に立川流亀崎力神車をモデルに大改造しました。明治時代末期まで本家筋の横根藤井神社祭礼に北尾力神車1輛と飾り馬一頭を奉納しました。現在は地区単位で行われています。昭和43年（1968）に、北尾力神車が市の有形民俗文化財に指定されました。

試楽では北尾力神車の金幣納め式が行われて、お囃子台で地区を巡行します。本楽では子供獅子舞で北尾地区祝廻りや神楽巫女舞、餅投げなどが行われます。起伏にとんだ地形を生かした北尾力神車宮出し曳き廻しの大見得とした梶廻しが勇壮で、北尾力神車宮入も見どころです。

